Copyright (c) 2011 NTT Software Corporation. All Rights Reserved.

## ■ライセンス

vHutは、Apache License Version 2.0 (January 2004)に基づいて使用、若しくは利用して下さい。

Copyright 2011 NTT Software Corporation

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

なお、vHutではGNU Lesser General Public License, Version 2でライセンスされているGranite Data Servicesの Code generation tools(Gas3)を使用しており、改変・再配布しています。 vHutを利用・再配布する場合、これらのファイルについては、GNU Lesser General Public License, Version 2のライセンス規約に従って下さい。 Granite Data Servicesのダウンロード先は、下記の通りです。

http://www.graniteds.org

# ■商標

記載されている会社および製品の名称は、各社の商標及び登録商標です。

No		分類		サーバ	項	目	手順	備考
	大 vHut インフラ環	中	小	9-71	大	中	実施内容	- -
2	境構築			管理サーバ			- - - - - - - -	-
3					Host登録		/etc/hosts に下記を設定する。 ・127.0.0.1のIPと管理サーバのホスト名	
4					Network設定		/etc/sysconfig/network-script/ifcfg-DD に内部用NW-IF情報を定義する。	-
5					vHutサーバ用仮 想ディスク作成 vHutサーバ用仮		vHutサーバ用の仮想ディスクを作成する。	ディスクサイズ120GB以上
7				RHEV-Mサーバ	vHutサーバ用仮 想マシン作成		vHutサーバ用の仮想マシンを作成する。 	(PU2コア以上 メモリ4GB以上
8					Host登録		C:\U00e4Windows\u00e4System32\u00e4drivers\u00aatet\u00e4\u00e4hosts に下記を設定する。RHEV-Mサーバの管理NW用IPとRHEV-Mサーバのホスト	
9				vHutサーバ			名 -	-
11					OSインストール Network設定		VHutサーバにOSをインストールする。 /etc/sysconfig/network-script/ifcfg-ethAA に管理用NW-	-
12							IF情報を定義する。 /etc/sysconfig/network-script/ifcfg-ethBB にサービス用	-
							NW-IF情報を定義する。 /etc/sysconfig/network-script/ifcfg-ethCC にストレージ用	
13							NW-IF情報を定義する。	
14					Host登録		/etc/hosts に下記を設定する。 ・127.0.0.1のIPとvHutサーバのホスト名 ・RHEV-Mサーバの管理NW用IPとRHEV-Mサーバのホスト	-
15					NTP設定 RHN登録		名 NTPサーバと同期する。 RedHatNetworkにライセンス登録すること。	-
16					パッチ適用		RedHatNetworkにフィセンス登録すること。 下記コマンドを実行する。	-
18					SELinuxの無効化		・yum update /etc/selinux/config に下記を設定する。	-
19				RHEV-Mサーバ			• SELINUX=disabled	
20				w y/\	PowerShellポリ シー設定	40113 when		-
21						ポリシー確認	下記コマンドを実行する ・Get-ExecutionPolicy	
22						ポリシー変更	下記コマンドを実行する ・Set-ExecutionPolicy RemoteSigned	
23						ポリシー変更確 認	下記コマンドを実行する ・Get-ExecutionPolicy	下記の設定であることを確認する。 ・RemoteSigned
24 25					ユーザ登録	ActiveDirectory	- ActiveDirectory に下記のvHut用アカウントを登録する。	-
						ユーザ	・システム管理者アカウント ・運用者アカウント	
26						RHEV-Mユーザ	RHEV-Mに下記のvHut用アカウントを登録する。 ・システム管理者アカウント	-
27	vHut アプリケー ション環境構築						・運用者アカウント	-
28		vHut Network Agent					-	-
29 30 31			環境構築	管理サーバ	77116 2 3 11		-	-
32					アプリケーションリ リース	dchpd導入	下記コマンドを実行する。	-
33						tar解凍	yum install dhcp /opt に vhut_k.tar を 配置し、下記コマンドを実行する。	【別紙_プログラム一覧】の管理サーバ用ファイルが全て存在すること。
							•tar -xvf vhut_k.tar vhut/	
34						ディレクトリの作成	下記コマンドを実行する。 ・mkdir /opt/vhut/agent/data	-
						110	- TIKUI / OPC/ VIIIL/ agent/ data	
35						vHut- NetworkAgent設	下記ファイルを編集する。 ・/opt/vhut/agent/conf/vhuta.conf	下記の設定がされていること。
						疋		[vhut] address: ["管理サーバの管理NW用IP"] port:443
								[nw] enable:true
								public_if:["内部NWのeth名"] public_if_preserve:true
								public_netmask:[「内部NWのサプネット数"] private_inf:["内部NWのth名"] private_network:["vHutで管理するVMに払い出すIPの開始"]
36						起動・停止スクリ	下記ファイルを配置する。	private_netmask:["内部NWのサブネット数"] -
37						環境変数設定	・cp ¬p /opt/vhut/etc/init.d/vhutad /etc/init.d/vhutad /etc/profileに以下を追記する。	
37						水水叉双臤足	VHUT_HOME=/opt/vhut	
38					相互認証用キー		下記コマンドを実施する。 ・source /etc/profile -	-
					ストア作成(vHut- Serverに展開す る)			
39						ディレクトリの作 成	下記コマンドを実行する。 ・mkdir /opt/vhut/agent/cert	-
40						ディレクトリの移 動	下記コマンドを実行する。 ・cd /opt/vhut/agent/cert/	-
41						EA鍵の生成	下記コマンドを実行する。	-
42							· certtool —generate-privkey > cakey.pem 下記ファイルを作成する。	下記の設定がされていること。
						データファイル作 成	•ca.info	cn = vHut developer expiration_days = 3652
								ca cert_signing_key
						43 = 6 - 6	T-21> 1°+	expiration_daysは有効期間。変更が必要な場合は適宜変更する。
43						目に者名の実行	下記コマンドを実行する。 ・certtoolgenerate-self-signedload-privkey cakey.pemtemplate ca.infooutfile cacert.pem	
44						エージェントキー の生成	下記コマンドを実行する。 ・certtoolgenerate-privkey > agentkey.pem	-
45						エージェント証明	下記ファイルを作成する。	下記の設定がされていること。
						書のメタデータ ファイル作成	•agent.info	※cnは管理サーバの管理用NWのIPアドレス corganization = vHut developer
								expiration_days = 3652  on = ***.***** tls_www_server
								encryption key signing key
								expiration_daysは有効期間。変更が必要な場合は適宜変更する。
	ļ		•	•	•		<del></del>	

		分類		11	項	目	手順	
No	大	ф	小	サーバ	大	中	実施内容	備考
46						エージェント証明 書の作成	下記コマンドを実行する。 ・certtoolgenerate-certificateload-privkey agentkey.pem ¥load-ca-certificate cacert.pemload-ca-privkey	
							cakey.pem ¥template agent.infooutfile agentcert.pem	
47						ディレクトリの作 成	下記コマンドを実行する。 ・mkdir /opt/vhut/server/cert	-
48						ファイル転送	下記コマンドを実行する ・scp cacert.pem ["vHutサーバの管理用NWのIPアドレス"]:/opt/vhut/server/cert	-
49 50				vHutサーバ		JDK導入	- 下記コマンドを実行する。	-
51						<b>管理サーバ用の</b>	yum install java-1.6.0-sun java-1.6.0-sun-devel 下記コマンドを実行する。	Enter keystore password:
						キーストア作成	<ul><li>cd /opt/vhut/server/cert</li><li>keytool -import -file cacert.pem -keystore vhutkeystore</li></ul>	⇒ キーストアのパスワードを設定する。 Trust this certificate? [no]:
52						管理サーバキー	-trustcacerts     下記コマンドを実行する。	<ul><li>⇒ yes</li><li>下記を参考に設定すること。</li></ul>
92						の作成	·keytool -genkey -alias vhut -keystore vhutkeystore	
								What is the name of your organizational unit? What is the name of your organization? What is the name of your City or Locality? What is the name of your State or Province? What is the name of your State or Province?
								⇒ 適宜環境にあった値を設定する。 Enter key password for <vhut> ⇒ Enter(keystoreと同様のパスワードが設定される。)</vhut>
53						管理サーバの証 明書リクエストの 作成	下記コマンドを実行する。 ・keytool -certreq -keystore vhutkeystore -alias vhut -file vhut.osr	Enter keystore password:  ⇒ 設定したキーストアのパスワードを入力する。
54						ファイル転送	下記コマンドを実行する。 ・scp vhutkeystore ["管理サーバの管理用NWのIPアドレス"]:/opt/vhut/agent/cert/	
EF				<b>等</b> 理共一学				
55 56				管理サーバ		CAキーを使って 署名	- 下記コマンドを実行する。 ・certtoolgenerate-certificateload-request vhut.csr	
							outfile vhutcert.pem \( \)load-ca-certificate cacert.pemload-ca-	Enter the certificate's serial number in decimal (default: 1317641672):  ⇒ Enter The certificate will expire in (days):
							privkey cakey.pem	The certificate will expire in (days):  ⇒ 3652  Do you want to honour the extensions from the request? (y/N):
								⇒ No Does the certificate belong to an authority? (y/N): ⇒ No
								→ No Is this a TLS web client certificate? (y/N):  ⇒ No
								Is this also a TLS web server certificate? (y/N):  ⇒ No  Enter the e-mail of the subject of the certificate:
								Enter the e-mail of the subject of the certificate.  ⇒ Enter  Is the above information ok? (Y/N):
								⇒ Yes
57				vHutサーバ		ファイル転送	下記コマンドを実行する。scp vhutcert.pem ["vHutサーバの管理用NWのIPアドレス"]:/opt/vhut/server/cert	-
59				VHut 9—/		証明書のインポート	下記コマンドを実行する。 ・cd /opt/vhut/server/cert	Enter keystore password:  ⇒ 設定したキーストアのパスワードを入力する。
							•keytool -import -alias vhut -keystore vhutkeystore - trustcacerts -file vhutcert.pem	
60		vHut Hypervisor Agent	799 144 645				-	-
61 62 63			環境構築	RHEV-Mサーバ	Windows Server		-	- - -
64					2008 R2初期構築	パスワード有効期限&複雑性を無効	パスワードのポリシーに下記を設定する。 ・パスワードの変更禁止期間:0日 ・パスワードの有効期限:0日	-
65						環境変数設定	・複雑さの用件を満たす必要があるパスワード:無効環境変数に下記を設定する。	-
						vHut-	PATH=C:\(\text{Program Files (x86)}\(\text{VronPython 2.6}\)     VHUT_HOME=C:\(\text{Vvhut}\)\(\text{agent}\)	
66						vHut- HypervisorAgent 用Firewallルール	FWの受信規則に、下記を設定する。 ・TCP:8000	
67					IronPython 2.6.2 インストール	設定	下記をインストールする。 ・IronPython 2.6.2	-
68					アプリケーションリ			-
69					リース	zip解凍	C:¥配下に vhut_r.zipを配置して、解凍する。	【別紙_プログラム一覧】のRHEV-Mサーバ用ファイルが全て存在すること。
70						IronPython- >RHEV-M制御用		下記の設定がされていること。
						ファイル設定 (RHEV-Mの.net 設定ファイルを利 用)	C:\Program Files (x86)\RedHat\RHEVManager\RHEVM Scripting Library\RHEVMCmd.dll.config ・[作成ファイル] C:\Program Files (x86)\IronPython 2.6\IronPython 2.6\IronP	<pre><add key="AppErrorsFileName" value="C:\Program Files (x86)\IronPython 2.6\AppErrors.resx"></add> <add key="VdstErrorsFileName" value="C:\Program Files (x86)\IronPython 2.6\VdsmErrors.resx"></add> <system.servicemodel>  \dbindings&gt;</system.servicemodel></pre>
								<pre><nettopbinding> C <binding closetimeout="01:00:00" opentimeout="00:10:00" receivetimeout="00:10:00" sendtimeout="00:10:00"></binding></nettopbinding></pre>
71							net設定ファイルをコピーして下記ファイルを作成する。 ・[.net設定ファイル] C.*Program Files (x86)*RedHat*RHEVManager*RHEVM Scripting Library*AppErrors.resx ・[作成ファイル]	
72							C:\Program Files (x86)\IronPython 2.6\AppErrors.resx Inet設定ファイルをコピーして下記ファイルを作成する。	
/2							・[net設定ファイル] C:\Program Files (x86)\RedHat\RHEVManager\RHEVM Scripting Library\VdsmErrors.resx ・(作成ファイル)	
73						vHut Hypervisor	C:\Program Files (x86)\IronPython 2.6\VdsmErrors.resx 下記ファイルを編集する。	下記の設定がされていること。
						Agentの設定ファ イル修正	・C:\(\forall v\) hut\(\forall agent\(\forall b\) in\(\forall R\) hevHandler.py	Table No. 2 に No.
74							下記ファイルを編集する。	下記の設定がされていること。
							下品ンアイルと機場来りる。 ・C:Wyhut¥agent¥conf¥aliveMonitoringRHEV.ps1	FREDVEX上がされていること。   Iogin-user rhevadmin ["rhevadminユーザのパスワード"] ["RHEV-Mドメイン"] -ErrorVariable \$e
75							下記ファイルを編集する。	下記の設定がされていること。
							• C:\\vhut\\agent\\conf\\vhut.conf	address:["RHEV-Mサーバの管理NW用IP"]
76							下記ファイルを編集する。	下記の設定がされていること。
							·C:\foots\foots\foots\foots\cong \text{Create-vHutNetwork.ps1}	
	I	I	Ī	1	I		J	1

N-		分類		м	項	目	手順	Mark.
No	大	中	小	サーバ	大	中	実施内容	備考
77 78						۲	インターネットから、sexe.exeをダウンロードする。 C.¥配下に展開する。 sexe.exeを利用して、vHut Hypervisor Agentサービスを登録	【設定内容】
						登録	ja.	プログラム ・ファイル → C:\Windows\SysWOW64\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe
								・起動時オプション → C:\\vert C:\vert C:\\vert C:\vert C:\vert C:\\vert C:\\vert C:\vert C:\vert C:\\vert C:\vert C:\ve
79					起動/停止確認		-	- This water hypervisor Agent
80						ディレクトリの作 成	下記コマンドを実行する。 ・mkdir C:¥vhut¥agent¥log	-
81						起動	  [コントロールパネル] -> [管理ツール] -> [コンポーネント  サービス] -> [サービス(ローカル)]から、下記サービスを起	-
							サービス 「ナービス (ローカル) 」から、下記サービスを起動する。 ・vHut Hypervisor Agent	
82						停止	[コントロールパネル] -> [管理ツール] -> [コンポーネント サービス] -> [サービス(ローカル)]から、下記サービスを停	-
83						起動	止する。 ・vHut Hypervisor Agent [コントロールパネル] -> [管理ツール] -> [コンポーネント	-
							サービス] -> [サービス(ローカル)]から、下記サービスを起動する。	
84 85		vHutサーバ	環境構築				•vHut Hypervisor Agent -	-
86 87			- N- 36 117 AC	vHutサーバ	パッケージ導入		-	-
88						RHNチャネル確 認	下記コマンドを実行する。 ・rhn-channel -l	-
89						RHN設定同期	下記コマンドを実行する。 ・rhn-profile-sync	-
90						Apache導入	下記コマンドを実行する。	-
91						Tomcat導入	yum install httpd 下記コマンドを実行する。	-
							yum install tomcat6 tomcat6-lib	
92						PostgreSQL導入	下記コマンドを実行する。 ・yum install postgresql postgresql-server postgresql-libs postgresql-jidbc	-
93						RHN設定同期	下記コマンドを実行する。	-
							·rhn-profile-sync	
94						パッチ適用	下記コマンドを実行する。 ・yum update	
95						パッチメタデータ 削除	下記コマンドを実行する。 ・yum clean all	-
96						パッチ適用	下記コマンドを実行する。 ・yum update	-
97					Apache設定		-	-
98						WWW設定	下記ファイルを編集する。 ・/etc/httpd/conf/httpd.conf	下記の設定がされていること。
								ServerName=[vHutサーバのサービス用NWのIPアドレス] DocumentRoot=/opt/vhut/server/static ' (Directory "/opt/vhut/server/static">
								AllowOverride All Order allow,deny
								Allow from all
99						Tomcat連携設定	下記ファイルを作成する。 ・/etc/httpd/conf.d/proxy_ajp.conf	下記の設定がされていること。
								<location vhut=""> ProxyPass ajp://localhost:8009/vhut</location>
								Order allow.deny Allow from all
100 101					JDK設定	= 1 h ! ! a /t	  -  下記コマンドを実行する。	-
102						ポープトリの作成 JDK設定	ト記コマントを実行する。 ・mkdir /opt/vhut/server/static 下記コマンドを実行する。	-
							·export JAVA_HOME=/usr/java/default	
103						システムデフォル トJDK設定確認	下記コマンドを実行する。 ・/usr/sbin/alternativesdisplay java	-
104						システムデフォル トJDK設定	下記コマンドを実行する。 ・/usr/sbin/alternativesconfig java	-
105						システムデフォル トJDK動作確認	下記コマンドを実行する。 ・/usr/bin/java -version	-
106						man-page確認	下記コマンドを実行する。	-
107					Tomcat設定		•/usr/bin/man java	
108					Tomcatatte	Tomcat設定ファイル	ー 下記ファイルを編集する。 ・/usr/share/tomcat6/conf/tomcat6.conf	JAVA_OPTSに以下を設定する。 JAVA_OPTS="-Xms1024m -Xmx1024m -XX:NewSize=64m -XX:MaxNewSize=64m -XX:PermSize=128m -
								XX:MaxPermSize=128m -XX:SurvivorRatio=2 -verbose:gc -XX:+PrintGCTimeStamps -XX:-UseAdaptiveSizePolicy - Djavax.net.ssl.trustStore=/opt/vhut/server/cert/vhutkeystore -
								Djavax.net.ssl.keyStore=/opt/vhut/server/cert/vhutkeystore -Djavax.net.ssl.keyStorePassword=["管理サーバ用キーストア作成"で設定したパスワード]"
109						クラスローダ設定	下記ファイルを編集する。 ・/usr/share/tomcat6/conf/catalina.properties	下記の設定がされていること。
110						BlazeDSライブラ	インターネットから、下記ファイルをダウンロードする。	common.loader=\$(catalina.home)/lib/blazeds/*.jar
						リ ダウンロード	•flex-tomcat-server.jar •flex-tomcat-common.jar	
111						BlazeDSライブラ リ設定	下記ファイルを配置する。 ・/usr/share/tomcat6/lib/blazeds/flex-tomcat-server.jar	-
						- person	·/usr/share/tomcat6/lib/blazeds/flex-tomcat- common.jar	
112					PostgreSQL設定	初期DB作成	- 下記コマンドを実行する。 ・su postgres	-
							<ul><li>su postgres</li><li>initdb -D /var/lib/pgsql/data</li><li>exit</li></ul>	
114						アクセス制限設定	下記ファイルを編集する。 ・/var/lib/pgsql/data/pg_hba.conf	下記の設定がされていること。
							, vai / iiu/ pgsqi/ uata/ pg_riba.conf	local all postgres trust local vhut vhut md5
42=						D	てジューフ・バナロ 仁士 フ	host vhut vhut 127.0.0.1/32 trust
115						PostgreSQL起動	下記コマンドを実行する。 ・service postgresql start	
116						vHutデータベース 作成	下記コマンドを実行する。 ・su postgres	-
							<ul><li>psql</li><li>CREATE USER vhut WITH PASSWORD '****';</li><li>CREATE DATABASE vhut;</li></ul>	
							• Yq • exit	
117						iptablesの設定	下記コマンドを実行する。 ・service iptables stop	-
							•service ip6tables stop •service ip6tables stop	
118 119					起動・停止確認	PostgreSQL停止	- 下記コマンドを実行する。	- -
120						Poetaro COI #1#4	・service postgresql stop 下記コマンドを実行する。	
							•service postgresql start	
121						Tomcat起動	下記コマンドを実行する。 ・service tomcat6 start	-
			İ	l	l		l	1

No		分類		サーバ		B .	手順	備考
122	大	中	小		大	中 Apacheコンフィグ 確認	実施内容下記コマンドを実行する。	-
123	-					<sup>傩談</sup> Apache起動	・/etc/init.d/httpd configtest 下記コマンドを実行する。	-
	-						service httpd start	
124						Apache停止	下記コマンドを実行する。 ・service httpd stop	
125 126					vHut-Server設定	Tomcat停止	下記コマンドを実行する。 ・service tomcat6 stop	-
127						warファイル展開	/root に vhut_k.tar を 配置し、下記コマンドを実行する。 ・unzip -d /usr/share/tomcat6/webapps/vhut /root/vhut_server_java-1.0.0.war	【別紙_プログラム一覧】に記載のvHutサーバ用プログラムが存在すること。
128						コンテキスト設定	下記ファイルを作成する。 ・/usr/share/tomcat6/conf/Catalina/localhost/vhut.xml	下記の設定がされていること。
129						vHut設定	下記ファイルを編集する。 ・/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/WEB- INF/classes/vhut.properties	下記の設定がされていること。 
								service.apy.m.prefix=VA service.aivm.prefix=VI service.aivm.prefix=VI service.aivm.prefix=VI cloud.network.prefix=VN service.adminAccount=[vHutのシステム運用者のRHEV-Mのユーザ] service.adminRoleName=Administrator service.guestRoleName=Guest cloud.scriptRoto=/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/scripts service.imageRoot=/opt/vhut/server/static/images service.serviceTaskCronExpression=*/30 ****? service.serviceOteckTaskCronExpression=*/30 ****? cloud.cloudTaskCronExpression=*/10 ****? cloud.intervalCheckClusters=60 cloud.intervalCheckNetworks=10 cloud.intervalCheckNatworks=10 cloud.intervalCheckVatworks=50 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.intervalCheckVatworks=50 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.intervalCheckVatworks=10 cloud.intervalCheckVatworks=50 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.intervalCheckVatworks=50 cloud.intervalCheckVatworks=60 cloud.omputeResourceTimeLimit=365 cloud.computeResourceTimeLimit=365 cloud.devResourceRate=20
130								cloud.cpuResourceWarnRate=70 cloud.cpuResourceLimitRate=90 cloud.memoryResourceLimitRate=90 cloud.memoryResourceLimitRate=90 cloud.storageResourceLimitRate=90 cloud.storageResourceLimitRate=90 cloud.vlanResourceLimitRate=90 cloud.vlanResourceLimitRate=90 cloud.publiclpResourceMarnRate=70 cloud.publiclpResourceLimitRate=90 cloud.publiclpResourceLimitRate=90 cloud.publiclpResourceLimitRate=90 cloud.specList=small : [1 , 1024 ] , medium : [2,2048], large:[4,4096] cloud.dsekt.pl.cimit=30 cloud.dsekt.pl.cimit=30 cloud.dsekt.pl.cimit=30 cloud.vlanStartNumber=[vHut.r管理するVMIC払い出すVLAN名の開始] cloud.vlanStartNumber=[vHut.r管理するVMIC払い出すVLAN名の終了] cloud.vlanEnclNumber=[vHut.r管理するVMIC払い出すVLAN名の終了] cloud.vlanEncludeList= cloud.vlanForMaintenanceList= cloud.exlpExtartAddress= cloud.exlpExcludeList= cloud.exlpExcludeList= cloud.exlpExcludeList= cloud.exlpExcludeList= cloud.inlpStartNwAddress=[vHut.refe理するVMIC払い出すIPの開始] cloud.inlpSubnetMask=[cloud.inlpStartNwAddressのサブネットマスク]
131								cloud.inlpGatewayOrder=1 cloud.inlpDhcpOrder=2 cloud.inlpDhcpOrder=2 cloud.inlpMaskOrders= cloud.inlpDnsAddress=[DNSサーバのIPアドレス] cloud.primaryNwAgentUrl=https://[管理サーバの管理用NWのIPアドレス]:443 cloud.secondaryNwAgentUrl=https://[管理サーバの管理用NWのIPアドレス]:443 cloud.rhevAgentIp=Inttp://RHEV-Mサーバの管理用NWのIPアドレス] cloud.rhevAgentIport=8000 cloud.rhevPortalIV=[https://RHEVUserPortalのアドレス] cloud.rhevOrtalIV=[https://RHEVUserPortalのアドレス] cloud.rhevCluster=Default cloud.rhevClusterId=1 cloud.rhevStorageDomain=[RHEV-Mで管理するStrage(Date)の名前] cloud.rhevMacStart=[vHutで管理するVMのMACアドレスの開始] cloud.rhevMacEnd=[vHutで管理するVMのMACアドレスの解発]
132								driver.RhevXmlRpcServerAddress=[http://RHEV-Mサーバの管理用NWのIPアドレス] driver.RhevXmlRpcServerPort=8000 driver.GET_ALL_CLUSTERS=get_all_clusters driver.GET_HOSTS_BY_CLUSTER_ID=get_hosts_by_cluster_id driver.GET_NETWORKS_BY_CLUSTER_ID=get_networks_by_cluster_id driver.GET_NETWORKS_BY_CLUSTER_ID=get_networks_by_cluster_id driver.GET_YMS_BY_CLUSTER_ID=get_most by_cluster_id driver.GET_TEMPLATES_BY_CLUSTER_ID=get_templates_by_cluster_id driver.GET_TEMPLATES_BY_CLUSTER_ID=get_templates_by_cluster_id driver.GET_TASKS_BY_TASKIDS=get_tasks_by_task_ids driver.GET_TASKS_BY_TASKIDS=get_tasks_by_task_ids driver.CREATE_VM=create_vm driver.DelLETE_VM=delete_vm driver.DelLETE_VM=delete_vm driver.ADD_NETWORK_ADAPTER=add_network_adapter driver.ADD_DISK=add_disk driver.ADD_DISK=add_disk driver.ADD_DISK=add_disk driver.REMOVE_DISK=remove_disk driver.REMOVE_DISK=remove_disk driver.ADD_USER=add_user driver.START_VM=start_vm driver.START_VM=start_vm driver.START_VM=start_vm driver.SHUTDOWN_VM=shutdown_vm driver.SHUTDOWN_VM=shutdown_vm driver.CREATE_TEMPLATE=delete_template driver.CHANGE_USERS_PASSWORD=change_users_password

No		分類		サーバ		目	手順	備者
	大	中	小		大	<b>中</b>	実施内容	We 19
133						vHutナーフル作 成	下記コマンドを実行する。 ・/usr/bin/psql vhut -U postgres < /usr/share/tomcat6/webapps/vhut/schema.sql	
134						データベース接続 設定	下記ファイルを編集する。 ・/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/WEB-	両ファイル共に、下記の設定がされていること。
						DX.C	// us/ sala control webapps/ vital WEB  INF/classes/jdbc.dicon  ·/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/WEB-	〈property name="user"〉vhut〈/property〉 〈property name="password"〉["∨Hutデータベース作成"で設定したパスワード]〈/property〉
							INF/classes/jdbc_product.dicon	Gropoity number passing of vitals and vital an
135						ディレクトリの作 成	下記コマンドを実行する。 ・mkdir /usr/share/tomcat6/webapps/vhut/scripts	-
136 137					vHut-server起動	Tomcat起動	- 下記コマンドを実行する。	正常に起動することを確認する。
100						A . +7.FL	・service tomcat6 start 下記コマンドを実行する。	/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/scripts/createVhutNetwork.csvファイルが正常に出力されていることを確認する。
138						Apache起動	ト配コマントを美行する。 •service httpd start	
139						ファイル転送	下記コマンドを実行する。 ・scp	-
							/usr/share/tomcat6/webapps/vhut/scripts/createVhutNet work.csv [管理サーバの管理用NWのIPアドレ	
140				管理サーバ	49 E1 (Mr 1 94 E9		ス]:/opt/vhut/agent/conf/ -	-
141 142					起動/停止確認	起動	- 下記コマンドを実行する。 ・/etc/init.d/vhutad start	-
143						ディレクトリの作	下記コマンドを実行する。	-
						成	•mkdir /opt/vhut/agent/log	
144						初期データベース	下記コマンドを実行する。	-
144						構築(nw.db)	/opt/vhut/agent/vhut/vhutac.pyaction importcsv /opt/vhut/agent/conf/createVhutNetwork.csv	
145						停止	下記コマンドを実行する。	-
110						+1 =1	•/etc/init.d/vhutad stop	
146						起動	下記コマンドを実行する。 ・/etc/init.d/vhutad start	
147 148			動作確認	管理サーバ			- -	-
149					dhcpd	Network確認	- 下記コマンドを実行する。	-
							•python /opt/vhut/agent/vhut/vhutac.pyaction show	
151						IP追加	下記コマンドを実行する。 ・python /opt/vhut/agent/vhut/vhutac.pyaction add_ipip xx.xx.xx.xxmac xx:xx:xx:xx:xx:xx:xx	環境に合わせて、ip/macを入力すること
152						Network確認	下記コマンドを実行する。	-
153			VLANデバイス作				•python /opt/vhut/agent/vhut/vhutac.py —action show	-
154			成	RHEV-Mサーバ			-	-
155					RHEV-M論理ネッ トワーク			-
156						ファイル転送	createVhutNetwork.csvを vHutサーバからRHEV-MサーバのC:¥vhut¥tools¥配下に転 送する	-
157						vHut-VM用NW	区 9 句 下記コマンドを実行する。 ・C.¥vhut/tools/Create~vHutNetwork.ps1	-
158					RHEV Manager		下記サービスを再起動する。	-
150			動作確認		サービス再起動		•RHEV Manager	
159 160 161			到JTF 作L ac	RHEV-Mサーバ	テスト用仮想マシ		 - テスト用の仮想マシンを作成する。	-
162					ン作成		テスト用の仮想マシンを起動する。	-
163					ン起動 NW確認		_	-
164						IP自動取得可否	下記コマンドを実行する。 ・ipconfig /all	IPアドレスを取得出来ていることを確認する。
165						IPリリース	下記コマンドを実行する。 ・ipconfig /release	IPアドレスをリリース出来ていることを確認する。
166						IP取得	· -	IPアドレスを取得出来ていることを確認する。
							•ipconfig /renew	
167 168				vHutサーバ	管理者アカウント		- 下記アカウントでvHutにログオンする。	-
169					でのログオン確認 vHut同期処理確		・管理者アカウント	
170					Valual可用处理唯		- 各操作に伴うバッチ処理の一部として実行されるため、適宜 確認する。	 vHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
						(GET_ALL_CLUST ERS)		
171						理	各操作に伴うバッチ処理の一部として実行されるため、適宜 確認する。	VHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
4=0						(GET_HOSTS_BY_ CLUSTER_ID)	A 45 lb-1- jk = , c, , or hn TIII or	
172						取得処理 (GET_TEMPLATE	各操作に伴うハッナ処理の一部として実行されるため、適宜 確認する。	VHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
470						S_BY_CLUSTER_I D)	<b>友福施に座るでいる加爾の一部</b> は ☞由によって は ※エ	ししょお手がた 一十 以面は私が付っていかいた ルマニーしか フ
173						ストレーシー覧取 得処理 (GET_ALL_DATA_	各操作に伴うハッナ処理の一部として実行されるため、適宜 確認する。	VHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
174						STORAGES) 仮想マシン一覧		VHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
						取得処理 (GET_VMS_BY_CL	確認する。	
175						USTER_ID) ネットワーク一覧 取得処理	 各操作に伴うバッチ処理の一部として実行されるため、適宜 確認する。	VHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
						取侍処理 (GET_NETWORKS _BY_CLUSTER_ID	ивело э о	
176						) ユーザー一覧取		vHut起動時には、必要情報が揃っていないためエラーとなる。
						得処理 (GET_ALL_USERS	確認する。	
			<u> </u>	<u>I</u>	ĺ	)	<u> </u>	